

## 第1回鶴居作業部会(わいわいサミット)議事録

開催日時: 令和8年7月3日 18時～19時30分

開催場所: 鶴居コミュニティセンター 研修室

| グループ | A  | B  | C  | D  |
|------|----|----|----|----|
| 参加者数 | 6名 | 4名 | 5名 | 5名 |

- 地域福祉計画および地域福祉活動計画の策定:  
事務局より、中津市における「わいわいサミット」の開催目的として、地域福祉計画と地域福祉活動計画の2つの計画策定が説明された。
- 地域福祉計画は行政による施策目標を定めた法的な計画であり、地域福祉活動計画は住民やボランティア、社会福祉協議会などが主体となり、市内15の地区ごとに具体的な目標や行動を決定する実践的な計画であると説明。これらは、高齢化や希薄化した地域関係により孤立する住民の問題に対処し、誰もが安心して暮らせる地域社会を構築するために今年度10月頃までの完了を目指して話し合いが持たれる。
- グループワークの趣旨説明と自己紹介:  
事務局より、作業部会の進め方として、参加者が居住地域の自慢や個人的な体験を共有する形式が提案され、正解や間違いのない自由な意見交換が推奨された。参加者はテーブルごとに自己紹介を行い、居住地域の魅力や自身の活動について発表することとなった。
- 参加者からは、スーパー等の生活利便施設、唐揚げなどの名物、地域祭事、ボランティア活動、過去の遺跡や歴史など、多様な魅力が語られた。
- グループワーク①  
参加者が住んでいる地域で「いいな」と思うものや場所について、「花」をモチーフにした付箋に書き出す作業を促した。参加者は個々人で2分間思考を巡らせ、各自の思いや誇りに思う点を書き出した。
- 参加者は個々人で書き出したカードをグループ内で共有し、模造紙に貼り付ける作業を行った。この過程で、他者の意見を聞きながら新たな気づきを得たり、自身のカードを追加したりして、グループ全体で地域の魅力を可視化した。
- 他グループとの共有:  
事務局の促しにより、各参加者は他グループが提示した意見を閲覧し、自身の考えに追加や修正を加える時間が設けられた。他の地区で行われている特色ある活動などが共有され、地域資源についての新たな気づきが促された。

- 公園や病院、スーパー等の生活環境の良さ、老人会による見守り活動、神社の存在などが地域資源として共有された。また、一部の参加者からは、過去の交番の存在や現状の課題など、地域が抱える構造的な変化についての指摘もあった。
- グループワーク②:  
「現時点での地域の良いところ」の確認に続き、グループワーク②では「これからの地域」を考えることを説明した。グループワーク②のテーマとして「自身が住みたい、住んで良かったと思える地域とはどのような地域か」を提示した。参加者は、現在の地域の改善点や理想の姿について話し合い、そのアイデアを黄色いリンゴ型の付箋に書き出す作業を行った。
- 住みたい地域をイメージする作業が行われ、参加者は隣近所の良い関係性、子供や高齢者への見守り体制、夜間も安全に散歩できる環境、気軽に相談できる場所やカフェの設置などが望ましい地域像として提案された。
- 参加者は、近隣に住む住民の構成について、高齢者や単身者だけでなく、外国人住民、身体・精神障害を持つ人々、学生、子育て世帯などが挙げられ、様々な背景を持つ住民が共生している現状が確認された。
- 先ほど挙げた多様な住民にとって住みやすい地域を想像し、意見を出し合った。具体的には、誰もが参加できるイベントの開催、外国人や障害者が困った時に相談できる窓口の整備、専門的な支援と地域理解の促進などが重要であるとの意見が出され、相互の理解と無理のない支え合いの重要性が確認された。
- 地域としては生活の利便性や教育環境が整っており、支部同士の繋がりが強い一方で、高齢者、障害者、子供、外国人、勤労者などが混在している現状を説明した。主な要望として、子供用の公園の拡充、外国人のサークルや交流イベントの開催、身近な相談相手の確保が挙げられた。また、町内会・班の機能強化が重要であり、災害時の対応や子供たちが健全に育つ環境(ラジオ体操の実施など)を目指すべきであると提言した。さらに、新しく転入してくる住民との交流をいかに促進するかが今後の課題であると述べた。
- 老人クラブに未加入の高齢者が気軽にスポーツや交流を楽しめる場が不足している現状を指摘した。野球場やサッカーグラウンドなどは存在するものの、利用料が高い場合や利用しづらい側面があるため、ダイハツアリーナ周辺の空き地を活用すべきだと提案した。具体的には、シートを敷くなどの簡易的な整備により、グラウンド・ゴルフができる広場を4〜5箇所設けることで、高齢者の健康づくりとコミュニティ形成に寄与できると述べた。
- 老人会が週1回の体操や防犯パトロールを通じて、子供たちの安全確認と挨拶の励行を行っていることを報告した。また、50代を中心とした会を設立し、地域の情報が自

然に集約される仕組みづくりを進めていることを説明した。世代間の交流においては、大きな声で挨拶を交わすことが重要であり、それを徹底することでコミュニティ内の多くの課題が解決可能であるとの考えを示した。

- 外国人住民との交流促進に向け、ベトナム語でゴミ出しのルールを表記するなど、言語面でのサポートが必要であると述べた。また、高齢化に伴う地域活性化策として、都会の事例を参考に各地区で「マルシェ」を開催し、歴史を継承しつつ若い世代を巻き込むアイデアを提案した。さらに、災害被災地の経験から、地域の自治会が強固であれば安否確認や物資配分が円滑に進むため、自治会活動の重要性を強調した
- 事務局は、今回の作業の終了を宣言し、今後は掲示された「こんな地域にしたい」という目標を実現するために、具体的に必要な取り組みや行動について議論していく方針を示した。